

平成19年度 麻生こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	麻生こども文化センターの管理運営に関すること 麻生小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	小・中学生のこども会議や、自主保育サークル・市民活動団体との連絡調整会議などで、幅広く意見を聞く機会を設けた。またこども文化センター・わくわくプラザに、意見箱を設置し、利用児童から大人まで、意見を集めるように努めた。地域行事などにも積極的に参加し、地域の方々との交流を深め地域のニーズを把握するように努めた。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	こども会議などで挙げた意見を基に図書や遊具の購入、行事の企画・運営等を行った。麻生こども文化センター独自のリーフレットやホームページなどで広く情報発信をした。また、運営協議会が中心となり、こども文化センターの利用団体の調整会を行い、午前中や夜間の一般利用について整理し、より利用しやすくなるように工夫した。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。また1つのクラブ活動を実施し、事業の充実に努めていた。

事業の実施に関する こと	昨年度に引き続き、内閣府認証NPO法人生活福祉ファクトリーとの共催で、乳幼児子育て支援事業「みどりのへや」を実施した。中高生こども会議で挙げられた意見を基に、中高生向けの行事の実施、また、自主保育サークルから挙げられた意見を基に乳幼児向けに「麻生キッズタイム」リトミック・パネルシアターを開催した。さらには、運協と地域の方々の協力のもと、地域の方が気軽に参加できる「こぶんまつり」・卓球大会・親子ストレッチを開催した。わくわくも毎月の「わくわくあそびむし」や「卒業・進級おめでとう祭り」など、全員で盛り上がる行事を行った。	運営協議会等との連携により地域のニーズに合った行事を実施したことは評価できる。また、NPOと協力し幼児支援事業をおこなっていたことなど、地域ボランティアの有効活用も図っていたことは評価できる。今後も、ボランティアの活用に努めること。
個人情報取扱に関する こと	かわさき市民活動センター個人情報保護方針を掲示して来館者に周知した。知りえた個人情報は鍵のかかるキャビネットに保管し、管理した。また保存期間が過ぎたものはシュレッダーで処理した。	個人情報の取扱については、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	清掃を兼ねた日常点検を毎日始業時に行った。こども文化センターが2階にあるため、危険箇所への張り紙、子どもの行動への目配り声がけを絶えず行った。修繕が必要な箇所は、発見次第、修繕し、応急処置をスタッフや運営協議会の方々に、さらには、地域の方々の協力、可能な箇所は修理を施した。11月には職員および臨時職員対象に防犯研修を実施した。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 24,513人 延べ団体利用数 5,351団体 (主な行事等) けん玉 こぶんまつり ～地域のひとたちとなかよくなるう～ (特色のある行事) CAPおとなワークショップ	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 麻生小学校わくわくプラザ 登録者数 411人 延べ利用者数 12,441人 (主な行事等) ぬりえを楽しもう あそびの天下大作戦 (特色のある行事) ホバークラフトに挑戦	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																														
(3) 収支状況																																
① 収支状況	<p style="text-align: right;">(単位：円)</p> <table> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>41,378,910</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>34,985,471</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理費</td> <td>2,901,456</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務経費</td> <td>1,291,898</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>42,200,812</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引</td> <td>▲ 821,902</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	41,378,910	支出	人件費	34,985,471		管理費	2,901,456		事務経費	1,291,898		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		合計	42,200,812		差引	▲ 821,902	<p>単館では支出が上回ったが、55館全体での指定管理料内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。</p>
収入	指定管理料	41,378,910																														
支出	人件費	34,985,471																														
	管理費	2,901,456																														
	事務経費	1,291,898																														
	その他経費	1,436,042																														
	青少年事業資産取得支出	909,090																														
	減価償却引当資産取得支出	40,492																														
	第1回精算に伴う返納金	636,363																														
	合計	42,200,812																														
	差引	▲ 821,902																														

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。